

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	下関市こども発達センター はたぶ園		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和6年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和6年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	7年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)や診療所の発達専門の医師、相談支援専門員と連携しチームアプローチで一人一人に応じた支援ができる。 総合的にアプローチできることで包括的、持続的な支援ができる。	専門職と連携したケース検討会議や、診療所カンファレンスなどを定期的に行っている、 また、ティーチャーズトレーニングなどで直接支援についての研修会など実施している。	内容や考え方が固定化しないように、外部研修にも積極的に参加し、新しいものを取り入れたり、自己研鑽に励み、支援者としての質の向上に努めます。
2	毎日の通園(給食、送迎)を通して日々の変化や成長など細かく知ること、タイムリーに、また即座な対応が可能。	日々の連絡帳や電話でのやりとり、親子活動への参加の機会を設定したり、行事への参加(運動会、保護者参観、クリスマス発表会)、面談や家庭訪問を実施し、家族支援にも力を入れている。	家庭での過ごし方が安定するよう助言やアドバイスを行い、子育ての悩み等を共有できる機会を多く作ったり、また行事への参加については、お子様や家族のニーズに合わせて内容や回数、日程など柔軟に対応していきたいと思います。
3	発達専門の医師や看護師が常駐し、日常的な健康管理や、医療的なケア、緊急時の対応などについて迅速かつ的確な判断や対応ができる。	診療所とのカンファレンスや、ケース検討会議などでも一人一人に応じた助言やアドバイスを頂いている。	引き続き連携をとりながら医療的ケアや、緊急時の対応について学べる機会を設け、いざというときに対処できるようにしていきたいと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の老朽化が目立ち修繕や買い替えを繰り返しているため清潔感にかける。	築30年の建物の為、現在のニーズに合わない部分や、修繕などでは解決できないことがある。	買い替えや修繕を計画的に行っていけるよう努めます。 将来的な建て替えも視野に入れた計画立てを実行していきます。
2	就業期間が長い職員が多いが、若い職員の定着が難しく年齢層に偏りが見られる。	職員の人材確保が難しく、一人一人の職員の抱えている業務量が多い。 人材育成を計画的に行う余裕がない。	若い職員が無理なく経験を積み、自信と責任をもって仕事に取り組めるような、人材育成を行っていただけるようなプログラムの作成や計画を立てていきます。
3			